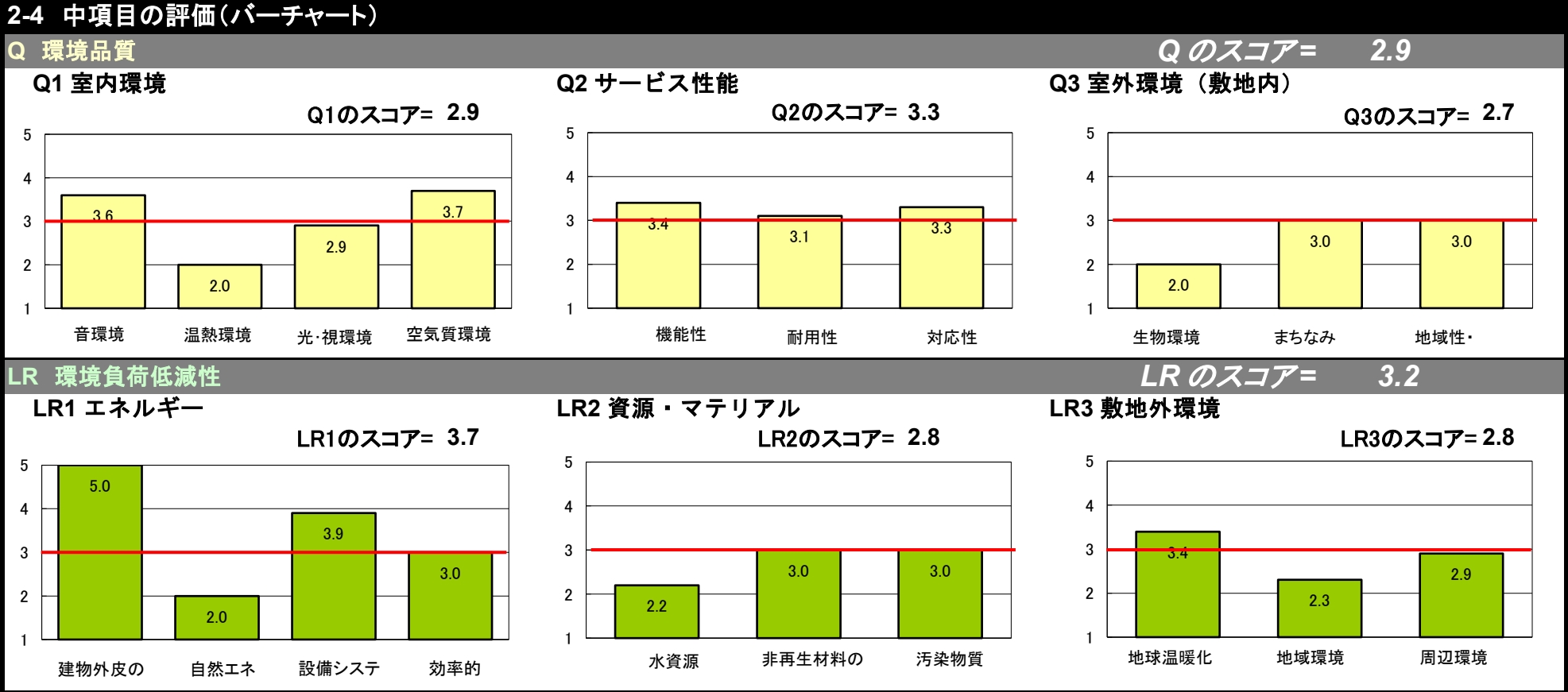
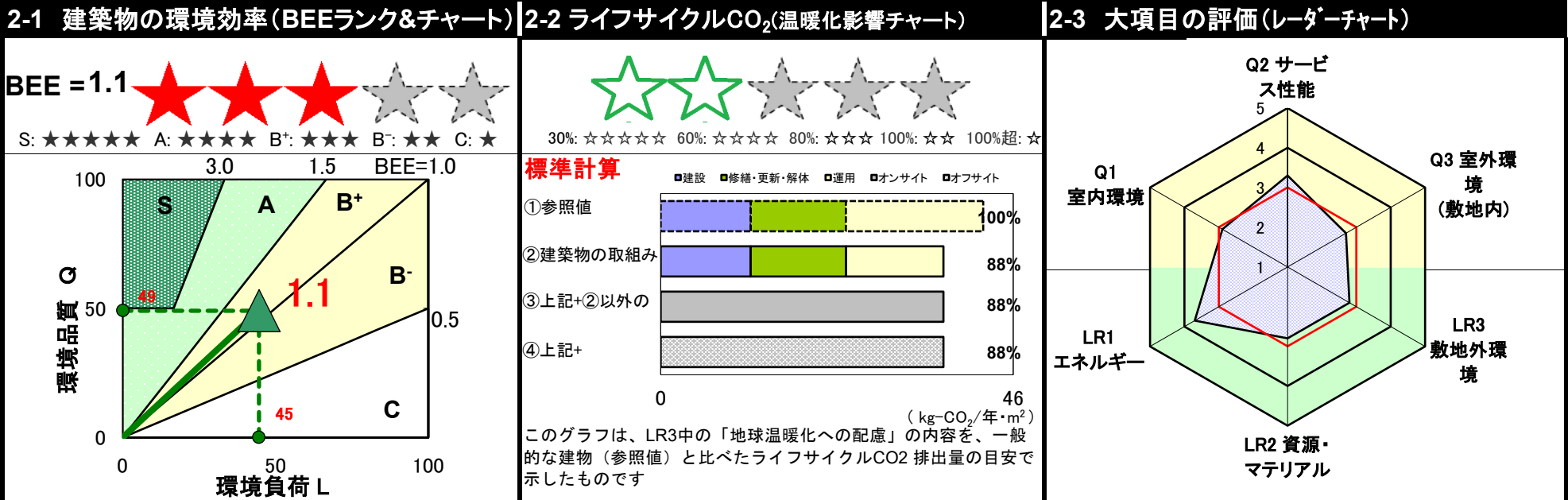


CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築) 2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	義務教育学校港島学園校舎整備工事	階数	地上4F
建設地	神戸市中央区港島中町3丁目2-3	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,720 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年8月 予定	評価の実施日	2025年2月18日
敷地面積	22,993 m ²	作成者	山根 正利
建築面積	1,773 m ²	確認日	
延床面積	5,227 m ²	確認者	



3 CASBEE神戸 の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 4.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 3.0	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 3.0
配慮の概要 高齢者等利用経路、出入口や廊下の幅員、階段・傾斜路の床材料に配慮。 建物内は昇降機を設置。	配慮の概要	配慮の概要
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
義務教育学校港島学園校舎整備工事

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.40		-	2.9	
1 音環境				3.6	0.15	-	-	3.6	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				4.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2		5.0	0.30	-	-		
2 界壁遮音性能		W7:遮音壁=TDL-50		5.0	0.30	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		室内運動場:乾式二重床システム		5.0	0.20	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.0	0.35	-	-	2.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.60	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.40	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.9	0.25	-	-	2.9	
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
1 昼光率				1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		ブラインド+庇によるグレアを制御		4.0	1.00	-	-		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-	3.7	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		内装材はすべてF☆☆☆☆		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能				1.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		排気設備のみ設置		5.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		敷地内禁煙		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性				3.4	0.40	-	-	3.4	
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.50	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニルシート(20年)、壁:ビニルクロス、EP(20年)、天井:ボード類(30年)		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VP:B、排水VP:B、上位3種の内2種類以上がBを使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				3.3	0.30		-	3.3	
3.1 空間のゆとり			階高:3.75m 壁長さ比率:0.138	4.0	0.30		-		
1	階高のゆとり	4.0		0.60		-			
2	空間の形状・自由さ	4.0		0.40		-			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30		-		
3.3 設備の更新性				3.0	0.40		-		
1	空調配管の更新性	3.0		0.20		-			
2	給排水管の更新性	3.0		0.20		-			
3	電気配線の更新性	3.0		0.10		-			
4	通信配線の更新性	3.0		0.10		-			
5	設備機器の更新性	3.0		0.20		-			
6	バックアップスペースの確保	3.0		0.20		-			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	2.7		
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0		
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			Ⅱ.1)花壇前の広場を憩いの場として提供 2)地域開放室を設置 Ⅲ.1)公共性の接点部のバルコニーに壁面緑化を形成し豊かな中間領域を形成 2)見通しの良いフェンスを設置	4.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上									2.0
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.2	
LR1 エネルギー			-	0.40		-	-	3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.63	5.0	0.20		-	5.0	
2 自然エネルギー利用				2.0	0.10		-	2.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m] = 0.71	3.9	0.50		-	3.9	
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-		
4.1	モニタリング	3.0		0.50		-			
4.2	運用管理体制	3.0		0.50		-			
集合住宅の評価				-	-		-		-
4.1	モニタリング	-		-		-	-		
4.2	運用管理体制	-		-		-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	-	2.8	
1 水資源保護				2.2	0.20		-	2.2	
1.1 節水				1.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-		
1	雨水利用システム導入の有無	3.0		0.70		-			
	2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30		-		-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60		-	3.0	
2.1 材料使用量の削減			ー 造り付家具に木質系セメント板	2.0	0.10		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				4.0	0.20		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20		-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30		-		
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-		
1	消火剤	-		-		-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	3.0		0.50		-	-		
3	冷媒	3.0		0.50		-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	-	2.8	
1 地球温暖化への配慮			LCCO ₂ 排出率88%	3.4	0.33		-	3.4	
2 地域環境への配慮				2.3	0.33		-	2.3	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.2	0.25		-		
1	雨水排水負荷低減	3.0		0.25		-	-		
2	污水处理負荷抑制	3.0		0.25		-	-		
3	交通負荷抑制	1.0		0.25		-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制	2.0		0.25		-	-		
3 周辺環境への配慮				2.9	0.33		-		2.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-		
1	騒音	3.0		1.00		-	-		
2	振動	-		-		-	-		
3	悪臭	-		-		-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				2.8	0.40		-		-
1	風害の抑制	3.0		0.60		-	-		
2	砂塵の抑制	2.0		0.20		-	-		
3	日照阻害の抑制	3.0		0.20		-	-		
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-		-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		0.70		-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30		-	-			